

菅平生き物通信

筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所

2026年(令和8年)6月14日(日)発行
第112号 ©2026 菅平高原実験所
ウェブサイト: www.msc.tsukuba.ac.jp/

〒386-2204 長野県上田市菅平高原 1278-294 電話: 0268-74-2002 FAX: 0268-74-2016



楽しい昆虫飼育

筑波大学 特任助教 藤田 麻里



図1: アゲハの幼虫(A)、蛹(B)、成虫(C)

皆さんは、生き物を飼育したことはありませんでしょうか。今この生き物通信を読んでいるらっしゃる皆さんの多くは、おそらく、学校やご自宅で、何かしらの生物を飼育し、ともに時間を過ごしたことがあるのではないのでしょうか。かく言う私も、子供の頃からダンゴムシ、カタツムリ、カブトムシ、スズムシ、メダカ、ハムスターなどなど：様々な生き物達の飼育に取り組んできました。今では仕事柄、昆虫の飼育は欠かせない要素の一つですが、当時はそのようなことはゆめゆめ思っておらず、彼らのお世話や観察そのものが大好きでした。飼育下での生物観察には、野外観察とは一味違った発見や楽しみがあります。また、それだけでなく、飼育そのものは新しいアイデアやインスピレーションの源と言っても過言ではありません。今回はこれまでの経験から、是非とも昆虫飼育の魅力 皆さんにお伝えしたいと思います。

まず、カブトムシやクワガタムシ、そしてチョウなどのように、幼虫から蛹を経て成虫へと体が劇的に変化する完全変態

昆虫の飼育は、幼虫→蛹→成虫期それぞれに楽しみがあります。カブトムシやクワガタムシの幼虫は腐葉土を食べ、チョウの幼虫は頭部を上下に動かしながら食草を食むように(図1A)、芋虫型の幼虫達が摂食と成長に専念する姿を観察することができます。やがて幼虫達は蛹になり(図1B)、体の再構成を終えると、カブトムシやクワガタムシは硬く光沢のある外骨格に立派な角や顎をそなえ、チョウは美しい模様を持った翅を広げるように(図1C)、成虫の体つきで蛹から出てきます(変態の詳細は『菅平生き物通信第106号』参照)。このように、完全変態類の飼育の醍醐味は、私たち人間の成長過程にはない、変態という生命現象を目の当たりにできることにあります。

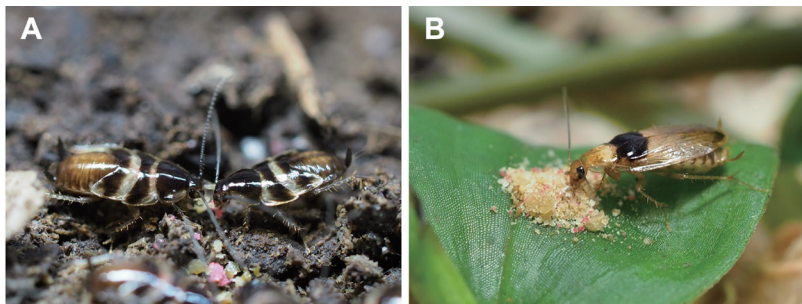


図2: 食事中的クロモンチビゴキブリの幼虫(A)と成虫(B)。幼虫・成虫ともに飼育下では金魚の餌などを好んで食べる。

一方、幼虫から脱皮を繰り返して、蛹の期間を経ずに成虫へと成長する変態様式のことを不完全変態と呼びますが、不完全変態類の昆虫は、翅や生殖器を除き、幼虫と成虫の間で体つきに大きな違いがなく、餌や生活様式もよく似ています(図2)(※)。代表的な例では、バッタ、カマキリ、カメムシなどが思い浮かぶことでしょう。不完全変態類の昆虫には、完全変態類のように目を見張る成長変化はないものの、「成虫までに何回脱皮するのだろうか」、「翅の原基(翅芽)が幼虫期にどのくらい発達しているのだろうか」など一連の成長過程を見守ることそのものが楽しいだけでなく、幼虫・成虫ともに大きく変わらない環境で育てられるのも利点の一つです。

ところで、飼育昆虫として定番の種は、飼育のノウハウが蓄積されているため、餌や環境などの条件がある程度満たせば安定的に育てることが可能ですが、飼育に関する知見がない種については、それを「ゼロ」から始めなければなりません。一見地味で面白くない作業に思えるかもしれませんが、頭も手も動かし、時に失敗しながらも種ごとにあった飼育環境を試行錯誤していく時間こそが実は楽しく、こうした苦勞の末に、昆虫達のがのびと暮らししている光景に出会うと、喜びもひとしおです。

このように、飼育一つとっても色々な楽しみ方があります。皆さんもこの夏は昆虫飼育に興じてみるのはいかがでしょうか。

※カゲロウ目やトンボ目のように、水生の幼虫から陸生の成虫に成長する場合は、幼虫の体にはえらが発達するなど、幼虫と成虫の間で体つきに大きな違いがみられます。

ハクウンボク

筑波大学 技術専門職員 山中 史江

6月なかば、樹木園の入口付近で来園者を明るく迎えてくれる木があります。エゴノキ科のハクウンボクです。この時期は一斉に花を咲かせ、あたりは甘い香りです。いづつも連なって咲く白い花は雲にたとえられ、名前の由来になっています。花は毎年咲きますが、比較的多く咲く年と少ない年があるように感じます。過去の写真を見ると、樹木園では2023年の花つきとてもがよく、そのときはみごとに「白い雲」が広がりました(図3)。

ハクウンボクは葉も魅力的です(図4)。丸い大きな葉の裏に、柔らかい毛がたくさん生えています。私が樹木園をガイドするときは、来園者にいつも葉の裏を触ってもらいます。「気持ちい

い！」と、みなさん笑顔になってくれます。ところでハクウンボクと近い仲間に、エゴノキとコハクウンボクという木があります。エゴノキは素朴な樹形と小さな葉の組み合わせが爽やかで、私も自宅に庭木として植えています。

コハクウンボクは樹木園にあり、ハクウンボクと同じように咲きます。名は、ハクウンボクに似て全体的に小ぶりなことに由来します。植物でも動物でも、その大ききから頭に「コ」がついたものはよくあります。コアシサイ、コムクドリ、コクワガタなど。なお、コハクウンボクの葉も可愛らしく、先を食べられてしまったような、はたまた寝かせだらけの頭のような、楽しいかたちをしています。

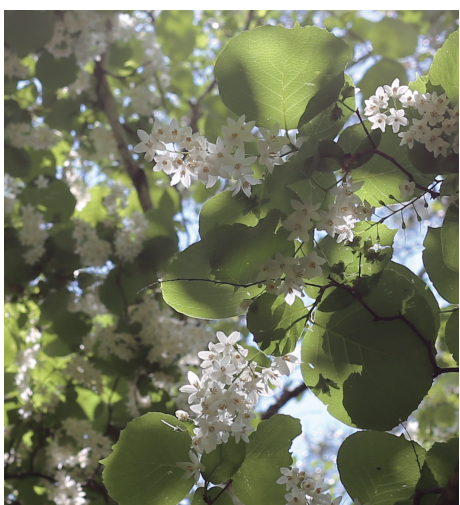


図3: ハクウンボク (2023年6月20日)



図4: ハクウンボクの葉 (2026年5月26日)



図5: コハクウンボク (2023年6月16日)

イベント情報

①夏の自然観察会「初夏の草原と森の観察、そして滝へ」

季節の草花や樹林を観察しながら、通常非公開の「大明神の滝」を目指します。菅平ナチュラリストの会（ボランティア）がご案内します。

- 日時 7月11日（土）9時30分～12時
- 定員 30名 ●参加費 50円（保険代）
- 会場 菅平高原実験所
- 服装・持ち物 長袖、長ズボン、歩きやすい靴、帽子、雨具、虫よけ、飲み物
- 申し込み 6月23日（火）9時～29日（月）に
①氏名、②住所、③電話番号、④メールアドレスを明記しメールでこのページ下段の宛先へ。先着順。数名のグループでお申し込みの方は、全員の氏名と住所を記載してください。
参加の可否について数日以内にご返信します。
事前に悪天候が予想される場合は中止となります（中止の場合は前日連絡）。



②第1回「まちなか自然博物館」

海野町商店街に二日間限定の「博物館」

まちなかキャンパスうえだを会場に、自然に関する展示を行います。裸地から森林への移り変わり、草原と森林の生き物、菅平湿原の自然と課題などについて、実物、写真、パネル、映像で紹介いたします。

菅平ナチュラリストの会有志と展示制作

草原には植物と昆虫がどのくらいいるのかボランティアと事前に調べ、その結果を報告します。ほかにもいろいろな木の実、鳥、哺乳類、菌類、変形菌など、さまざまな生き物情報があふれる展示を計画しています。

また、ボランティアとジオラマを制作予定です。どのようなものができあがるのでしょうか…お楽しみに！

県外の自然博物館紹介とワークショップ

茨城県自然博物館と群馬県立自然史博物館を取り上げ、自然系博物館の魅力と役割を紹介します。あわせて菅平高原にある菅平高原自然館も紹介します。

また、顕微鏡を使ったワークショップを開催します。植物、昆虫、菌類、岩石など、いろいろなものを顕微鏡で観察してみましょう。ご自身を観察したいものの持ち込みも歓迎です。

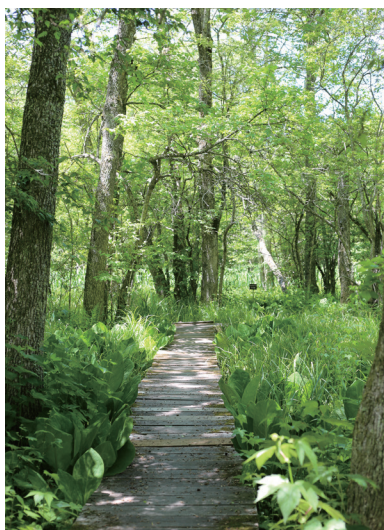
- 日時 9月5日（土）および6日（日）10時～17時

- 会場 まちなかキャンパスうえだ（上田市中央2・5・10丸陽ビル1階）

- 入場無料

- 主催 筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所／共催 上田市

車でお越しの場合は上田市役所または近隣の有料駐車場をご利用ください。



菅平湿原

- ①②共通

問 筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所

☎ 0268-74-2002（平日9～17時）

✉ ikimono_srs@un.tsukuba.ac.jp



本通信の印刷・配布は

東郷堂様にご協力いただいております

次号は9月発行予定です